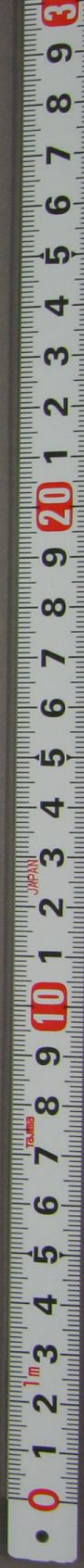


平民農
横田茂兵衛
静岡縣下
遠江国濱名郡小野村大字内野土番地

建白書

明治三十一年九月



建白書

大正五年十一月四日



静岡縣遠江國濱名郡小野田
 村大字内野十一番地平民農
 横田茂兵衛謹言書
 内閣總理大臣伯爵大隈重信閣
 下ニ捧呈ス謹言惟ルニ方今
 政費ノ多端國庫歳入豫算ニ
 不足ヲ告ケ之レ力賤源ヲ調

理スルカ爲ニ經費節減ト云
ヒ諸税増徴ト云ヒ當路者忠
君愛國ノ勵精實ニ傍觀スヘ
カラサルヲ感ヲ有シ後令万
分一夕モ報國ノ微衷ヲ表シ
度キ感慨ノ餘リ日夜刻苦熟
慮シ茲ニ一ノ賤源ヲ發見ス
其趣旨タルヤ曩ニ己ニ華族

方ニハ世襲賤産ノ恩典法ア
リ果シテ美事良法ナルニ感
泣セシカ爾來陸續出願ノ多
キヲ見ル因テハ貴族ト平民
トハ貴賤ヲ別アリト云ト雖
モ皆皇國ノ臣民ニシテ
皇恩ノ辱十キヲ拜スル別ア
ルニ非ス又皇國ノ爲ニ盡ス

取政務ノ爲ニ盡ス所別アル
ニ非ス又士族平民ト雖モ或
ハ華族ト同一視スヘキノ門
閥豪農商無之トモ難申是等
ノ豪族ハ一朝國家有事ノ場
合或ハ日清事件ノ如キ貧民
救護ノ如キ起業振興ノ如キ
實ニ有爲ノ豪族ト認ムルモ



世襲賤産ノ方法タルヤ私設
薄弱ニシテ公法ニ依ラサル
ヲ以テ一朝子孫ニ不良不明
ノ徒出ル時ハ忽チ塵芥ノ如
ク亂費シ且人ノ爲ニ被害等
ノ不都合ヲ生シ祖先ノ厚意
ヲ空フスルノ弊害ニ至ラシ
ム寔ニ歎息ノ至リ也故ニ之



レヲ憂慮シ家督讓與ニ躊躇
シ爲ニ或ハ一家ノ風波ヲ釀
シ種々ノ弊害ヲ惹起シ爲ニ
終ニ有爲有力ノ豪族ヲ滅亡
ニ歸スル者徃々民間ニ多キ
ヲ見ル是畢竟世襲賤産法規
ノ設ケ十キヲ以テ十リ且外
國人内地雜居實施モ目前ニ

了リ是等ノ豫防ニモ必用ヲ
感ス故ニ茲ニ士族平民ニ於
ルモ同シ皇國ノ臣民タル限
リハ華族ニ亞クノ保護ヲ蒙
リ田畑宅地山林及ヒ規定ア
ル諸銀行會社等ノ株式類ヲ
以テ世襲賤産法令ヲ發布セ
ラレ任意ノ出願ヲ許可シ各

登記所ニ於テ其登記ヲ執行
シ其保護税ヲ(初度ノ登記ニ
一回收ムルノミ)徴收セ
ラレテハ毎歳必クモ貳百萬
圓以上ノ國庫歳入必ス有之
モノト思考ス而シテ此税金
タルヤ國庫ニ民力ニ有功無
害ノ一舉兩全法ナルヲ以テ
其恩典ト自家永久ノ治安ト

ニ感泣シ陸續出願スルモノ
ト思考セリ依テ試ニ同胞ノ
士ニ質スルニ皆賞賛ヲ表ス
故ニ此世襲財産法規實行セ
シ曉ハ上ハ政費ノ一助ヲ得
下ハ自家永遠ノ幸福ヲ保千
彼我益造資ニ勵精シ一舉兩
全ノ策ヲ得所謂富國強兵ノ

基ヒテ増進セシムルノ法令
ト可相成法案ト思考仕候就
テハ猶之レニ伴フ上下ノ便
益トナルヘキ趣旨多々有之
モ文辭難盡大要ヲ開陳ス伏テ
希クハ閣議乙夜ノ覽ヲ給ヒ
士族平民ニ於ル世襲財産法
令御發布了ラシテ不肖茂

兵衛 誠恐誠惶頓首謹テ建白
ス

右 建白者

明治三十年九月十八日

横田茂兵衛

内閣總理大臣伯爵大隈重信閣下

卷之五 增進書

四國醫藥大在

...

...

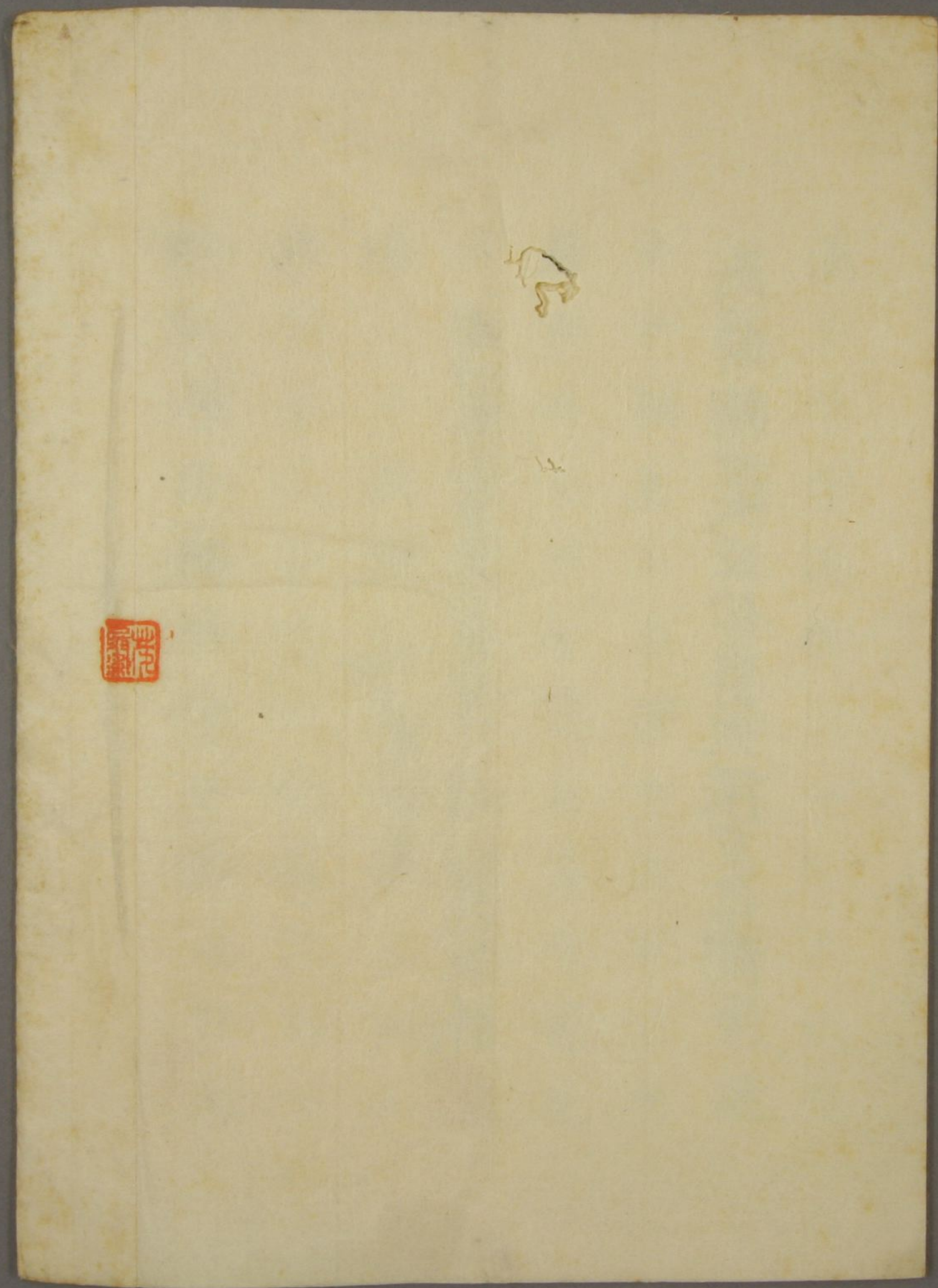
...

...

...

...





東京宮城内内閣

内閣總理大臣伯爵野村大隈重信殿

建白書在中

書留便



笠井 298



明治三十一年九月十八日

静岡縣下

遠江國濱名郡小野郡大字内野土番

横田茂兵衛

